

令和 6 年 10 月 15 日（水） 竜王町教育委員会

綾戸地先遺跡発掘調査説明資料

所在地	竜王町大字綾戸地先
時代	弥生時代前期末～中期初頭、平安時代中期（10 世紀中頃）、平安時代末～鎌倉時代前期（12 世紀末～13 世紀前半）
遺構	掘立柱建物跡 9 棟（10 世紀中頃：2 棟、12 世紀末～13 世紀前半：6 棟、時期不明：1 棟）、溝跡、土坑、旧河道など
遺物	弥生時代前期末～中期初頭：弥生土器、10 世紀中頃：緑釉陶器・灰釉陶器・黒色土器、12 世紀末～13 世紀前半：土師器・黒色土器・瓦器等、16 世紀：一石五輪塔・石仏板碑
調査主体	竜王町教育委員会
調査期間	令和 6 年 5 月～10 月
調査面積	約 2,200 m ²

遺跡概要とその成果

・竜王町内最古（弥生時代前期末～中期初頭）の弥生土器の出土

弥生時代前期末～中期初頭の弥生土器の破片 1 点、旧河道 1 から出土している。器種は壺、外面に 3 条の直線紋が確認でき、口縁部に蓋を固定するための紐を通す孔が 1 ヶ所ある。

これまで竜王町内で確認されている弥生時代の遺跡は、弥生時代中期初頭の岡屋南遺跡（大字岡屋）が最も古く、次いで、中期前半の提ヶ谷遺跡（大字岡屋）であり、本調査地の東方に広がる綾戸遺跡（大字綾戸）が中期後半であった。今回の調査成果により、竜王町内での弥生時代の遺跡が前期末にさかのぼる可能性が高くなった。

・平安時代中期（10 世紀中頃）の集落跡

調査区北西部で、掘立柱建物跡が 2 棟（建物 1・2）、中央部で土坑 2 基（土坑 1・2）等が見つかった。掘立柱建物跡は、主屋と考えられる建物 1（2 間×3 間）と、それに付属する小型の建物 2（2 間×3 間）の 2 棟で構成され、その規模から一般的な百姓層の建物跡と考えられる。

これらの建物跡は、昨年度の勘定海路遺跡の発掘調査で見つかった建物跡と同時代であり、当時の集落の広がりや個々の建物構成など、新たな情報を得た。

・平安時代末～鎌倉時代前期（12 世紀末～13 世紀前半）の大型建物を中心とする屋敷地

掘立柱建物が 6 棟（建物 3～8）、土坑（土坑 3）、溝跡等があり、建物跡は、北側（建物 3・4）と、南側（建物 5～8）のまとまりに分かれる。その中でも特に南側の大型の建物 7（4 間×5 間）、建物 8（4 間×5 間）は規模が大きく、当時の一般的な百姓層の建物の約 1.5～2.5 倍の建物面積を有し、名主などの有力な百姓層の屋敷地であった可能性が高く、この建物を中心に屋敷地が形成されている。

中心核整備事業に伴う埋蔵文化財調査の総括

竜王町教育委員会では、中心核整備事業に伴い、令和 4～6 年度の 3 ヶ年をかけて埋蔵文化財の本発掘調査を実施し、多くの考古学的な成果が得られた。

① 綾戸地域の歴史的重要性

住居跡などの遺構を伴わないものの、縄文時代のサヌカイト製の石鏃・スクレイパーや、弥生時代前期末～中期初頭の弥生土器が出土している。綾戸地先は、綾戸遺跡や苗村神社など、町内でも重要な歴史遺産が存在する地であることは認識されていたが、今回の調査結果により、改めてその歴史の古さ、地域的な重要性が高まった。

② 竜王町の集落景観の形成過程を知る手がかりを得た

竜王町の歴史的な景観の一つに、条里地割によって整然と区画された田んぼの中に小さな集落が点在することがあげられる。これは近江における中世（鎌倉後期～南北朝期）以来の伝統的な集落景観であり、その中でも竜王町の平野部の景観は、その姿をよく残している。

今回の発掘調査の結果、この条里地割に沿った遺構は、平安時代初め（9世紀前半）の建物跡・溝跡が最古であり、以降、この条里地割に沿った建物が継続して築かれている状況が確認できた。つまり、本調査地周辺では、9世紀前半には条里地割を志向した、「条里集落」が形成されていたことが明らかとなった。

また、発掘された集落跡は、現在の集落位置とは異なること、さらに、2～4棟の建物のまとまりが分散して形成される、「散村」であることが分かった。加えて、本調査で最も新しい鎌倉時代前期の集落跡が、現綾戸集落の近辺に営まれ、それ以降の集落跡が見つかっていないことから、現在の綾戸の集落景観は、鎌倉時代後期以降に形成された可能性が高くなった。

③ 平安・鎌倉時代の集落、有力者層の生活の一端が明らかとなった

竜王町初の平安・鎌倉時代の集落跡の大規模な発掘調査であり、平安時代前期（9世紀前半）、平安時代中期（10世紀前半～中頃）、平安時代末～鎌倉時代前期（12世紀末～13世紀前半）と、各時代の集落跡の発見とともに、有力者層が居住していたことを示唆する下記の遺構・遺物が出土した。

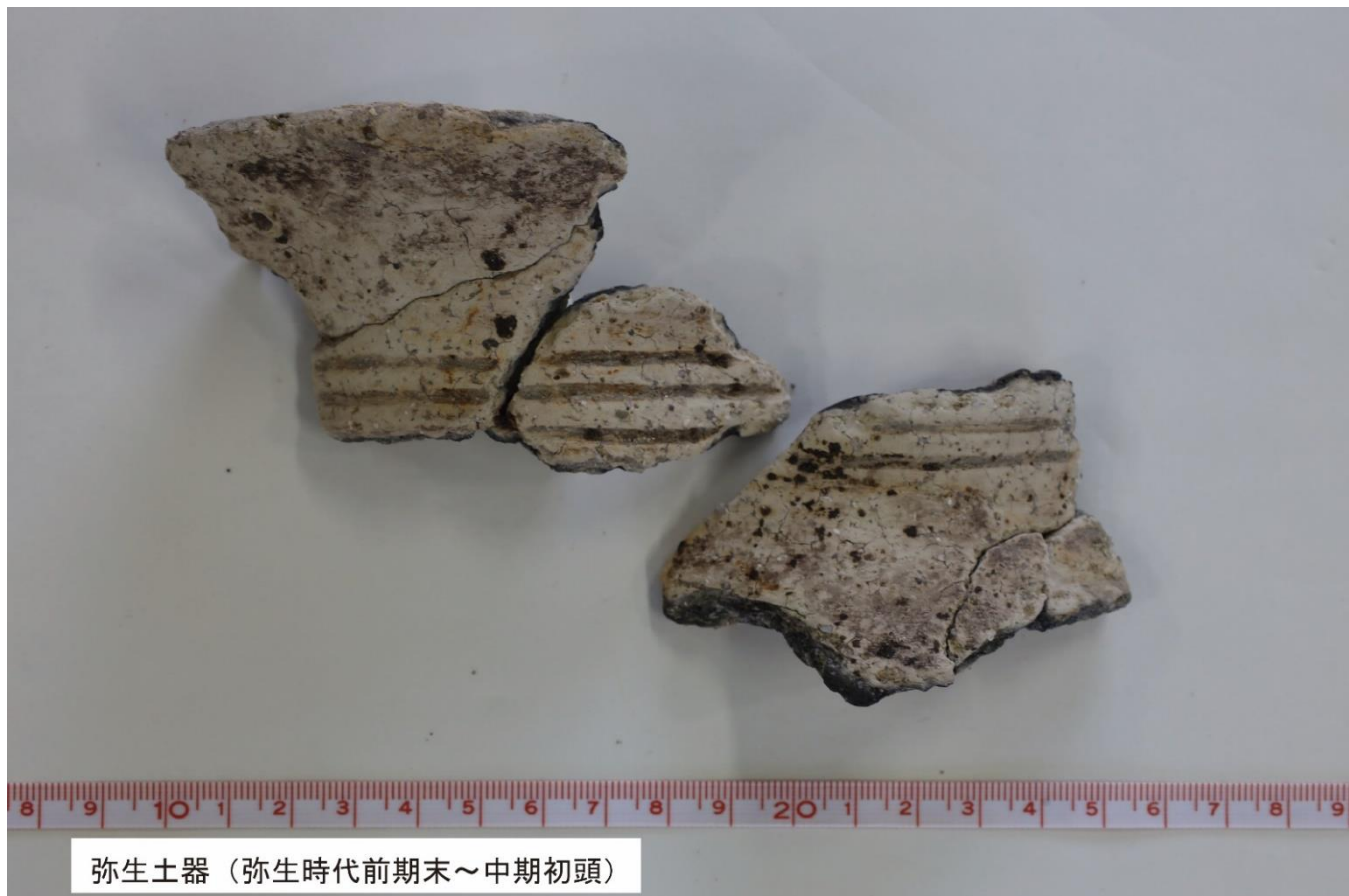
- ・平安時代前期（9世紀前半）の「秋暁」などの文字が記された墨書土器。
- ・平安時代中期（10世紀前半～中頃）の近江の緑釉陶器窯との関係を推測させる多量の緑釉陶器・灰釉陶器。
- ・平安時代末～鎌倉時代前期（12世紀末～13世紀前半）の大型の掘立柱建物。

いずれも地域の有力な百姓層の存在を推測させる遺物・遺構であり、当時の彼らの生活の一端が明らかとなったことで、鎌倉時代後期以降に形成される惣村の前段階の様相を解明する資料を得たといえる。

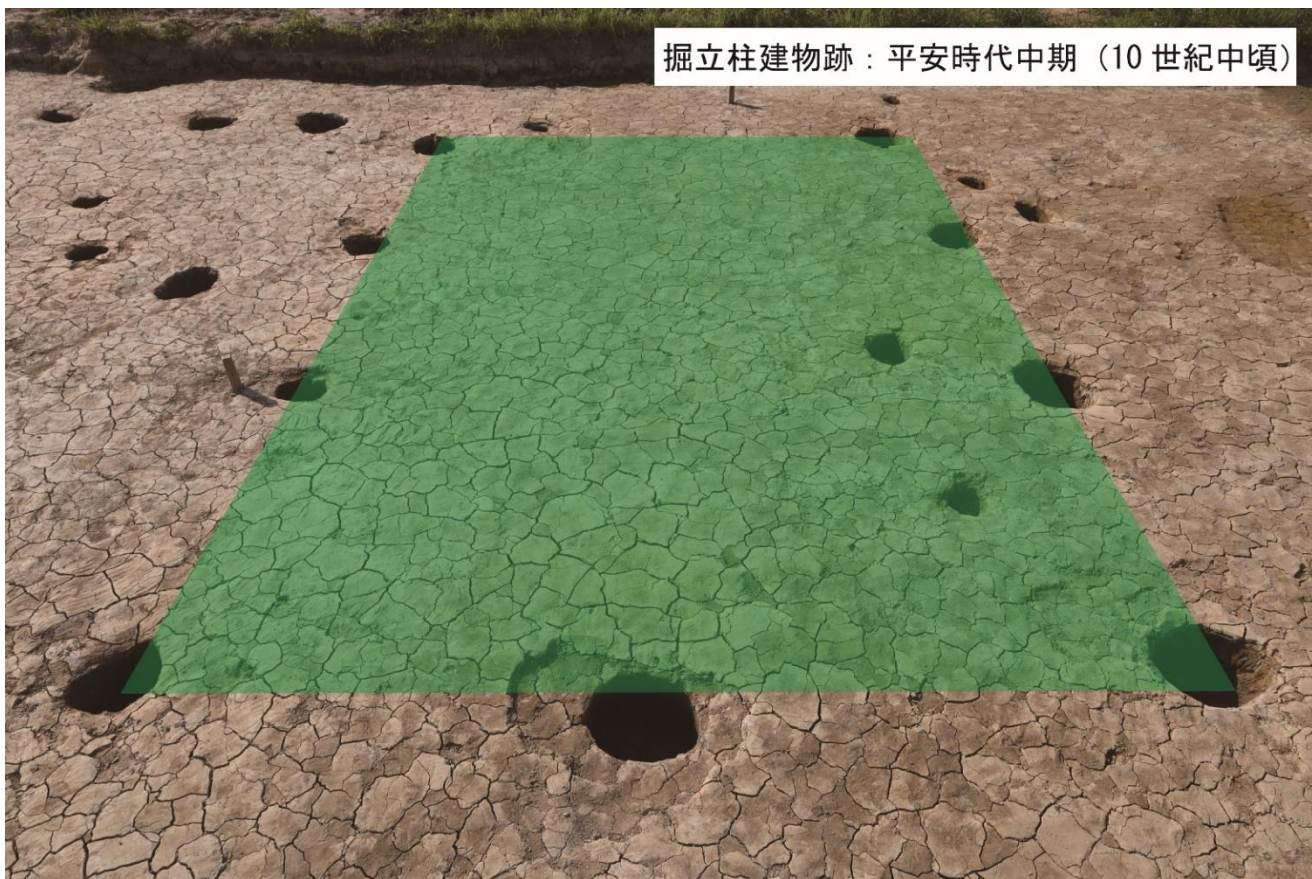


令和6年度 綾戸地先埋蔵文化財発掘調査概要図



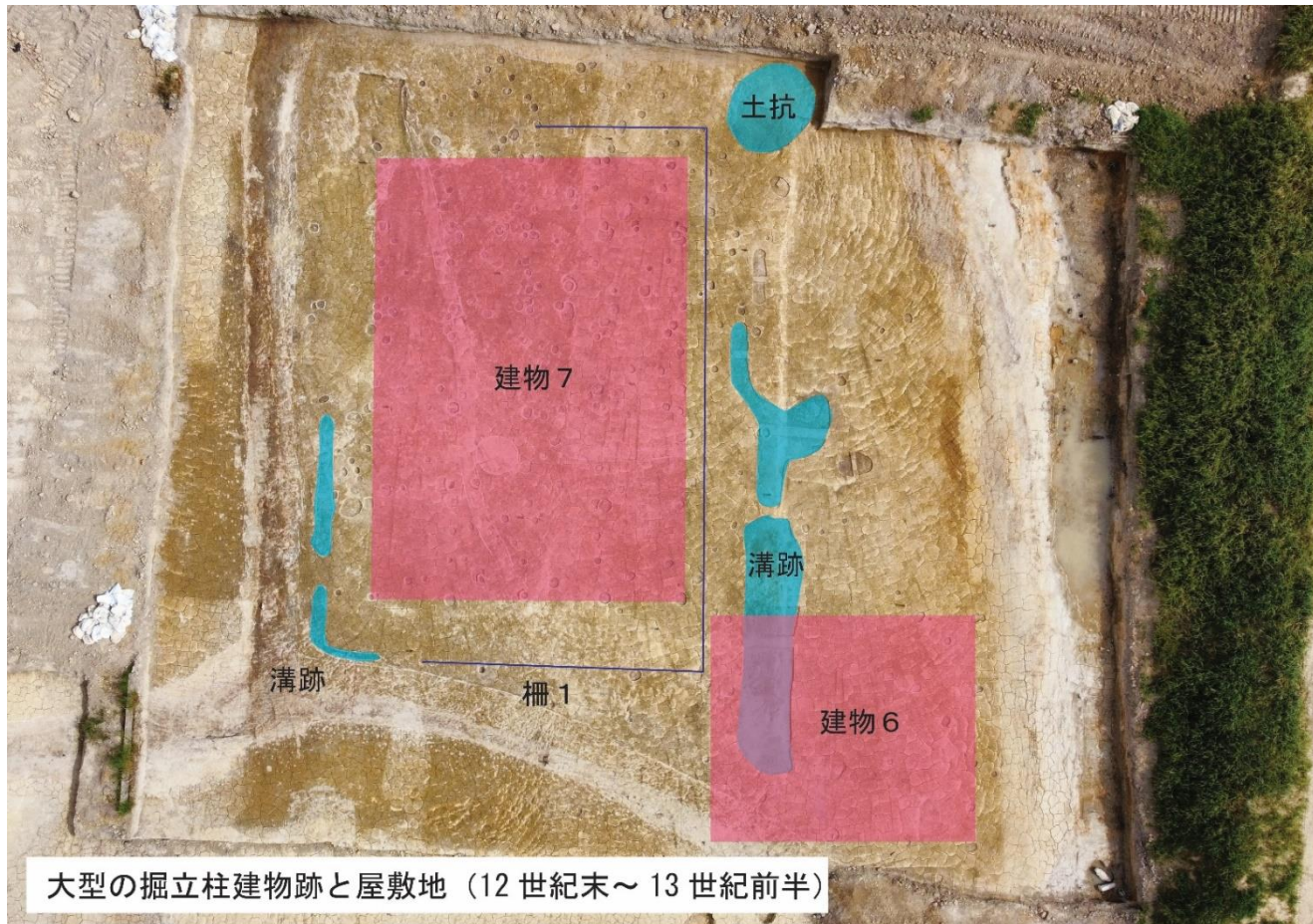
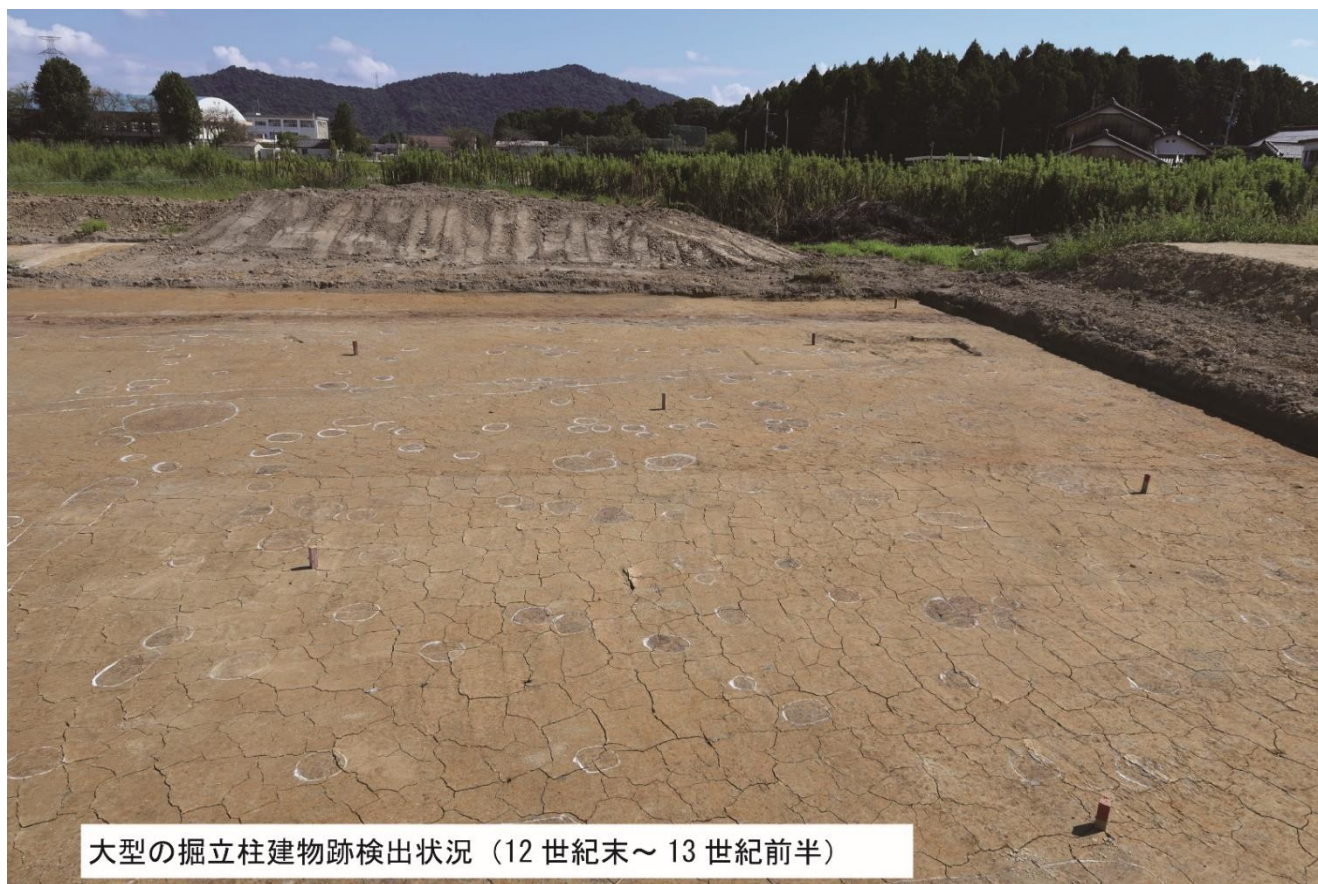


掘立柱建物跡：平安時代中期（10 世紀中頃）



掘立柱建物跡：平安末～鎌倉時代前期（12 世紀末～ 13 世紀前半）





発掘現場説明会・歴史文化講座

・「綾戸地区遺跡発掘現場」現地説明会

日時：令和6年10月20日（日）

場所：遺跡発掘調査現場（竜王町大字綾戸）

時間：14時～15時30分

定員：20家族程度

主催：竜王町小学校運営協議会 竜王町地域学校協働本部

協力：竜王町教育委員会 竜王小学校

・令和6年度りゅうおう歴史文化講座

第1講

日時 令和6年11月9日（土）13：30～15：30

テーマ「古代安吉郷の渡来氏族と安吉勝氏ー竜王町勘定海路遺跡出土の墨書土器をめぐってー」

講師 大橋 信弥（おおはし のぶや）氏（元県立安土城考古博物館学芸課長・渡来人歴史館顧問）

第2講

日時 令和6年11月30日（土）13：30～15：30

テーマ「滋賀県内の文化財建造物とその保存継承」

講師 坪田 叡伴（つぼた えばん）氏（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課）

第3講

日時 令和6年12月 7日（土）13：30～15：30

テーマ「竜王町の平安時代集落跡を掘るー近江の緑釉陶器窯周辺における古代末集落の一樣相ー」

講師 林 修平（はやし しゅうへい）氏（竜王町教育委員会事務局生涯学習課）

場所：竜王町公民館1階ホール（第1講・2講）、同2階研修室（第3講）

定員：第1講・2講 100名、第3講 70名

主催：竜王町教育委員会

竜王小学校コミュニティスクール事業

1000年前の歴史をしのぶ「見学会」に ご家族で参加しませんか

「綾戸地区遺跡発掘現場」現地見学会

竜王小学校では、竜王小学校学校運営協議会と協働して「地域学習推進プロジェクト」を展開しています。この「地域学習」は地域の自然、歴史、文化、伝統行事、産業といった教育資源（「ひと・もの・こと」）を活かし、学校・家庭・地域が一体となって、地域に誇りを持ち心豊かでたくましい子どもを育てることを目的としています。

この取組は、学校の授業だけでなく、それ以外の場においても子どもたちの感性を育み、地域の歴史・自然・文化等への理解の深化につなげていくことも念頭に置いています。

町が昨年度より実施されている「交流・文教ゾーン」整備（ここに竜王小学校が新設されます。）に伴う綾戸地区の遺跡発掘調査によって、昨年度とは違った場所で平安時代の終わりから鎌倉時代の初めにかけての住居跡や土器が出土しました。この機会に第2回目の現地見学会を開催します。普段見ることのできない、ふるさと竜王の古人（いにしえびと）の営みを追体験してください。みなさん（児童・生徒そしてご家族等）の参加をお持ちしています。

開催日時は令和6年10月20日（日）午後2時～3時30分（予定）です。

なお、この案内は町内の小中3校にしております。詳しくは裏面をご覧ください。

裏面へ続く

.....切り取り線.....

「綾戸地区遺跡発掘現場」現地見学会参加申し込み用紙

この事業に参加していただく方のお名前を記入してください。

参 加 者 氏 名	※ 学年・組／続柄	学校名
代表者		(○で囲む)
		竜王小学校
		竜王西小学校
		竜王中学校

※ 参加児童・生徒は学年・組を、家族の方は児童・生徒との続柄を記入してください。

締切：10月11日（金）

「綾戸地区遺跡発掘現場」現地見学会日程等

日 時 令和6年10月20日(日)

午後2時～3時30分(予定) 受付・集合：午後1時40分

場 所 綾戸地区遺跡発掘現場(竜王町綾戸)

集合場所・駐車場は「竜王町立図書館駐車場」です。(現場まで歩いてすぐ)

集合時間は午後1時40分です。受付を行います。

定 員 20家族程度

(家族＝児童・生徒・兄弟・父母・祖父母 他)

持ち物 長靴の用意をお願いします。

主 催 竜王小学校学校運営協議会

竜王町地域学校協働本部

協 力 竜王町教育委員会 竜王小学校

その他 表面の申し込み用紙を学校へ提出してください。

(竜王西小学校、竜王中学校はそれぞれの学校へ。)

申し込み締め切りは10月11日(金)必着とします。

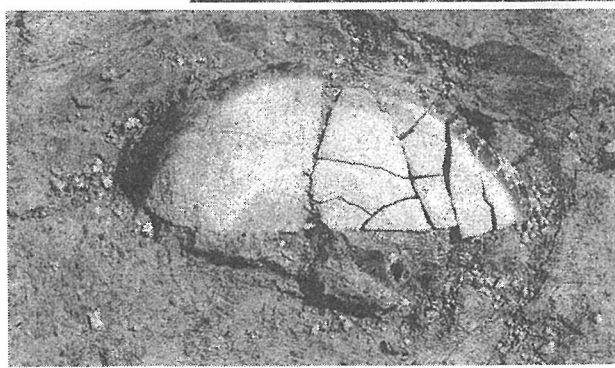
問合せについては竜王小学校へ(57-0004)してください。

参加希望者には後日詳細を連絡します。

その際、天候等による変更の連絡もします。

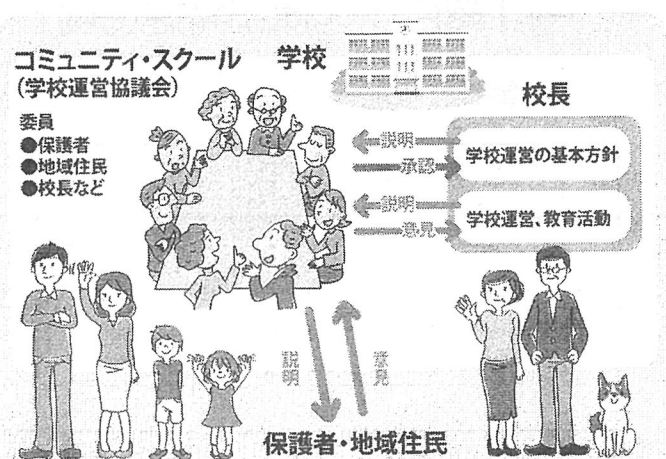
保護者同伴で送迎をお願いします。

(一緒に見学しましょう。)



コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度)とは

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、地教行法第47条の5に基づき、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、互いに協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。



令和6年度

りゅうおう歴史文化講座

主催 竜王町教育委員会

11月9日(土) 13:30～15:30 竜王町公民館 1階ホール

第1講

「古代安吉郷の渡来氏族と安吉勝氏」

— 竜王町勘定海路遺跡出土の墨書土器をめぐって —

大橋 信弥 氏 元県立安土城考古博物館学芸課長・渡来人歴史館顧問

11月30日(土) 13:30～15:30 竜王町公民館 1階ホール

第2講

「滋賀県内の文化財建造物とその保存継承」

坪田 叡伴 氏 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

12月7日(土) 13:30～15:30 竜王町公民館 2階研修室

第3講

「竜王町の平安時代集落跡を掘る」

— 近江の緑釉陶器窯周辺における古代末集落の一樣相 —

林 修平 氏 竜王町教育委員会生涯学習課



勘定海路遺跡



重要文化財 苗村神社楼門



墨書土器「秋暁」

開催場所 ● 竜王町公民館

受講料 ● 各回 500 円

申込方法 ● 電話(平日のみ)・FAX・メールにて
氏名(ふりがな)・住所・連絡先(電話番号)・
参加希望回を書いてお申し込み下さい。

● 問い合わせ・申し込み先

竜王町教育委員会事務局生涯学習課

TEL: 0748-58-3711

FAX: 0748-58-2655

メール: syogaku@town.ryuoh.shiga.jp

第1講 「古代安吉郷の渡来氏族と安吉勝氏」

— 竜王町勘定海路遺跡出土の墨書土器をめぐって —

大橋 信弥 氏 元県立安土城考古博物館学芸課長・渡来人歴史間顧問

竜王町は、古代の行政区画では、蒲生郡安吉郷に所属していた。この地には、蒲生郡で最有力な渡来氏族安吉勝氏をはじめ、多くの渡来氏族が居住しており、蒲生野の開発をはじめ大きな役割を果たしていた。そして平安時代になると、安吉郷には嵯峨源氏の民部卿大納言源昇の所有する荘園「土田庄」が置かれ、今回調査された勘定海路遺跡は、その一角に所在している。

今回の文化講座では、渡来氏族安吉勝氏の動向を中心に、古代蒲生郡安吉郷の様相を、勘定海路遺跡出土の墨書土器との関わりとともに考えたい。



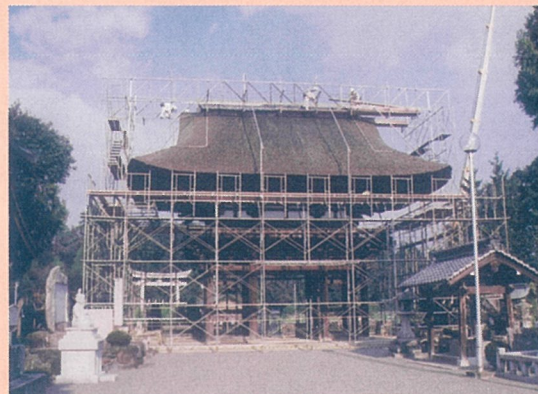
古代安吉郷（竜王町）

第2講 「滋賀県内の文化財建造物とその保存継承」

坪田 伴叡 氏 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

滋賀県内には多くの文化財建造物が残されており、国宝・重要文化財の建造物は全国で3番目に多い190件にのぼります。

また、そのうち10件が竜王町に所在しています。これらの建造物は長い間何度も修理を行い、継続的な維持管理のもと現在まで受け継がれてきたものです。この講座では県内、竜王町内の文化財建造物の概要やそれらを継承するために必要な保存修理、天災から文化財を守るための耐震対策、防災施設整備などについて説明いたします。



重要文化財楼門修理風景（苗村神社）

第3講 「竜王町の平安時代集落跡を掘る」

— 近江の緑釉陶器窯周辺における古代末集落の様相 —

林 修平 氏 竜王町教育委員会生涯学習課

竜王町教育委員会は、大字綾戸地先において、令和4～6年度に埋蔵文化財の発掘調査を実施し、町内初となる平安～鎌倉時代（9～13世紀）の集落跡が見つかりました。

平安時代前期（9世紀前半）の蒲生郡条里に沿った建物・灌漑用水路、墨書土器等の出土品。平安時代中期（10世紀前半～中頃）の緑釉陶器窯との関連が推測される緑釉陶器素地・焼き歪んだ灰釉陶器、鍛冶関連の鉄床石・砥石等の出土品。平安時代末～鎌倉時代前期（12世紀末～13世紀前半）の大型建物を中心とする屋敷地など、その調査成果を報告します。



緑釉・灰釉陶器ほか（勘定海路遺跡）